

様式2 高次脳機能障害の評価

◇診断における必須検査

* は臨床心理、神経心理検査として保険診療報酬が算定可能な検査である。

	検査名	検査の概要	所要時間	参考値
知能	WAIS-III * (WAIS-R *)	全般的知能を測る検査。 IQのほかに、言語理解、知覚統合、作動記憶、処理速度の4つの群指数が得られる。	90分	平均値：IQ100 (SD15)
	ミニメンタルステート検査 (MMSE)	スクリーニング検査として用いられる。 主に記憶力、計算力、言語力、見当識を測定する。	15分	27~30点 正常 22~26点 軽度認知症の疑い 21点以下 認知症の疑い強い
記憶	日本版ウェクスラー記憶検査 (WMS-R) *	「言語性記憶」, 「視覚性記憶」, 「注意/集中力」, 「遅延再生」といった記憶の各側面が算出可能。	90分	平均値：指標100 (SD15)

◇高次脳機能障害の参考となる検査

	検査名	検査の概要	所要時間	参考値
記憶	リバーミード行動記憶検査	日常生活場面を想定した記憶検査。	45分	SPS SS 39歳以下 19/20 7/8 46歳~59歳 16/17 7/8 60歳以上 15/16 5/6
注意	標準注意検査法 * (CAT)	注意機能全般(容量、持続、選択、変換、配分など)を評価する検査	100分	各年代別に健常群の平均値と比較
	注意機能スクリーニング検査 (D-CAT)	注意、集中力をみる検査。(数字の抹消を行い、見落としや、作業量の変化を見る)	10分	偏差値：50
	Trail Making Test (TMT)	注意の持続と選択、視覚探索・視覚運動協調性などを調べる検査。	15分	PartA PartB 平均値：45-54歳 32.0±8.4 76.0±27.9 55-64歳 32.1±6.6 83.3±25.5 65-74歳 47.8±14.3 112.7±31.7 *安部他 脳と神経 56(7), 2004より
遂行機能	遂行機能障害症候群の行動評価 (BADS)	日常生活上の遂行機能(自ら目標を設定し、計画を立て、実際の行動を効果的に行う能力)を総合的に評価。	60分	各下位検査の評価点の合計24点満点でプロフィール得点を算出
全般	宮城県版 高次脳機能障害チェックリスト	高次脳機能に関連した様々な問題を生活に即して捉えるために考案されたチェック表。	5分	本人、家族、支援者用があり、症状や行動に対して、「あり」、「時々あり」、「なし」で回答。本人や家族、支援者間の差異をみることもできる。
	宮城方式 高次脳機能チェック表	MMSEとHDS-R両者の得点を求めることが可能。その他、記憶、注意、遂行機能、半側空間無視、病識欠落をチェックできる簡便な評価表。	10分	MMSE：境界値23点以下 HDS-R：境界値20点以下